

J-PARC NEWS

Japan Proton Accelerator Research Complex

大強度陽子加速器施設

平成23年5月27日発行

発行元：日本原子力研究開発機構・高エネルギー加速器研究機構

J-PARCセンター

〒319-1195 茨城県東海村白方白根2-4 Tel: 029-284-3731

震災復旧（その2）

1. 東日本大震災、J-PARC復旧に向けて

J-PARCは、今回の地震でライフラインを含めて施設に大きな被害を受けたが、施設利用を可能な限り速やかに再開するため、施設の点検や復旧作業を実施中。今年12月からのビーム調整運転再開、年度内に2サイクル以上の共用運転の確保を目標とする基本計画に従い、関係機関との調整、修復工事・作業などを全力で進めている。

※復旧計画については<http://j-parc.jp/ja/topics/2011/ja.html>に掲載（5/20）



3GeVシンクロトロンでは、周回道路を仮復旧し、受電設備復旧に向けた準備を進めている。

2. J-PARC利用に向けた連携協力協定締結（4月1日）

J-PARC物質・生命科学実験施設の共用促進法に基づく利用促進業務を行う機関として、3月22日にCROSS（一般財団法人総合科学研究機構）が文科省から選定され、4月1日にJAEA・KEK・CROSSの間で、連携協力協定を締結した。また、4月26日には第1回連携協力会議がいはらき量子ビーム研究センターで開催され、事業計画やユーズオフィス業務の連携、情報システム利用など、連携協力に関する検討状況報告が行われた。



第1回 連携協力会議開催（4/26）

3. 「いはらき圏 技術なう。」にJ-PARCブース開設（5月19-20日）



日産自動車TCで開催の茨城県内企業のイベントに出展したJ-PARCブース

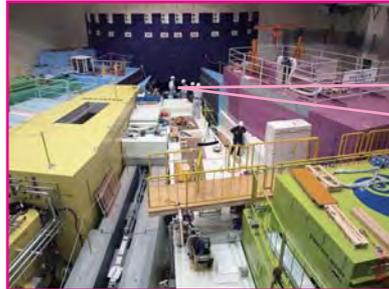
茨城県内企業が有する先端技術を広くアピールするため、常陽銀行主催、いはらき成長産業振興協議会共催の「技術提案型展示商談会 in NISSAN」が、神奈川県の日産自動車テクニカルセンターで開催された。J-PARCも中性子の産業利用を中心に展示を行い、X線との比較などを判りやすく説明した。展示会に参加した多数の技術者・研究者から質問が寄せられた。

4. 被災状況の調査と復旧

震災から2カ月が過ぎ、加速器や実験装置の点検並びに水準測量による傾斜測定など、詳細な被災状況の把握を進めている。また、施設の復旧も開始され、道路の復旧、受電設備や給排水設備などの修復工事が進められている。



3GeVシンクロトロン屋外では、周回道路、電源ヤード、給水ラインなどの修復工事に着手。



MLF実験ホールでは、ずれた遮蔽体を一時撤去し、点検後組み立て直す作業を実施中。



BL18~20中性子ビームラインでは、遮蔽体を移動して装置の健全性を確認。



リニアック棟周りでは、給排水設備配管が多数寸断された。修復に向けて準備中。



ハドロン実験施設では、トレーラー出入口周辺の陥没修復を実施し、重量物の輸送手段の確保がされた。



加速器トンネルを乗越える道路。一部陥没したが大型トレーラーなどの通行に支障が生じないように最優先で復旧させた。



ニュートリノミュオンモニター棟。震災時に液状化現象で陥没した個所の修復作業を実施。



同上施設のビームライン電磁石、電源配線、冷却水管などについて、健全性の確認が進められている。

5. 被災状況ご視察等

- 4月27日 濱田純一 東京大学総長
- 4月28日 プレス関係者への被災状況説明会(15社参加)
- 5月6日 川内博史 衆議院議員、他
- 5月9日 高野守 衆議院議員、他
- 5月13日 梶山弘志 衆議院議員、他
- 5月13日 田中博敏 内閣府政策統括官付参事官
- 5月17日 永山賀久 文部科学省研究振興局振興企画課長
- 5月24日 A. テイラー ISIS(英国核破砕中性子源)施設長



被害状況をプレス関係者に公開(4/28)